

平成30年度 猪名川町立六瀬中学校 学校関係者評価報告

【学校教育目標】 主体的に夢を描く力の育成

目指す学校像	目指す生徒像	目指す教師像	本年度の重点目標	学校関係者評価総評
<ul style="list-style-type: none"> 学力を伸ばす学校 居場所がある学校 命と健康を大切にす学校 	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ楽しさを身に付けた生徒 自他を認める生徒 自分の命を自分で守り健康を管理できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲をくすぐる教師 生徒の背景や心の状態を受け止め、寄り添い、共に歩む教師 心身共に健康で、生徒のことを第一に考える教師 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」「魅力ある授業」による学力保障 ユニバーサルデザイン化の推進 ふるさとづくりの推進 特別支援教育の充実 人権・同和教育の推進 安全教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価、改善方策共に適切である。 六瀬村塾の取り組みは素晴らしいので、継続する。 空き教室の有効利用をして、地域住民と生徒の交流の場を作る。 地域のイベントに中学生が参加して、地域とのふれあいを深める。

A:できている(満足) B:どちらかといえばできている(やや満足) C:どちらかといえばできていない(やや不満) D:できていない

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:

領域	評価の観点	評価項目	評価基準	② 到達度	③ 評価	改善方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	学校関係者評価委員の提言
1 学校運営	(1) 学校運営	①家庭や地域への情報発信	学校だよりや学年だより、ホームページなどで教育方針や教育内容など学校情報を積極的に発信している。	78.3	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやホームページにより学校教育目標や指導方針、取り組みなどを積極的に知らせ、保護者や地域住民に理解と協力を得る。 学校行事に地域住民が参加できるように、案内状を自治会等に配布する。 オープンスクールの日程を設定しているが、毎日がオープンスクールであるという意識をもって取り組んでいく。また、校区内の幼稚園・小学校の保護者にも案内状を配布し、参加しやすいようにする。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 六瀬中学校だからできる情報伝達方法を工夫する必要がある。 地域とのつながりを深めるための一策として、体育大会や文化祭以外の行事でも案内状やお知らせを配布して欲しい。 地域住民にどのような協力を希望されているのか、具体的にわかるように働きかけて欲しい。
		②保護者、卒業生、住民参加の教育活動(六瀬村塾)	学校の教育活動に、保護者、卒業生、地域住民が積極的に参画できるような体制ができている。また、自ら進んで参加協力を努めている。	92.2	A				
		③オープン行事の企画実施	オープンスクール、各種説明会、オープン行事を企画し、保護者や地域住民の感想意見を積極的に取り入れている。	90.6	A				
	(2) 学校組織 及び 教職員の資質向上	①校務分掌の機能	学校経営方針のもと、校務分掌が適切に配置され、「チーム学校」として組織が十分機能している。	73.4	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人の良さが発揮できる校務分掌の配置と校務分掌の見直しを行う。 「少なさ」を活かして、情報交流を活発にすると共に、同僚性がある職場環境を整える。 ベテラン教師が若手教師の手本となるOJTを推進していく。 今年度から取り組んでいる授業改善を継続し、授業力の向上を図る。 出張で学んだことを還元できる場を設定し、情報の共有化を図る。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 職員室の整理整頓を推進するために、強化週間を設けるなどして、職員の意識向上を図ってください。 PTA活動にも協力的で大変有難く思う。各先生方の個性や特性をどんどん発信してほしい。 職員構成のいびつさによる課題を解消するためには、ベテラン教師のリーダーシップが必要である。
		②会議の運営	職員会議や連絡調整委員会、学年会議、各種委員会が連携して効率的に行われている。	79.7	B				
		③教職員のチーム力	学校教育目標に沿って、教職員一人一人が前向きに丸となって組織的に活動している。	79.7	B				
		④関係者とのコミュニケーション	様々な場面を活かして、地域住民、PTAと教職員が積極的なコミュニケーションを図り、相互理解と相互信頼の構築に努めている。	78.1	B				
		⑤研究研修の充実	教育全体の新たな課題や本校重点課題に即して、研修活動が活発に行われている。	84.4	A				
		⑥教職員のマナー、倫理観	トイレや机上整理など職場の環境美化に努めるとともに、社会人としてのマナーや教育公務員としての高い倫理観が職場にみなぎっている。	75.0	B				
		⑦勤務時間の適正化	学校行事の見直し、ノー部活デー、ノー会議デー、定時退勤日の実施により、生徒と向き合う時間を確保し、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて取り組んでいる。	80.0	A				
	(3) 特色ある学校づくり	①夢を描く力の育成	子どもたちに「主体的に夢を描く力」を身に付けさせるように努めている。	81.3	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒達に夢を考えさせることによって、内発的動機付けをして、自主的に学習に取り組む態度を育成する。(ドリームマップ授業) 今年度実施した「もし私が町長だったら」を継続する。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 夢を見るのが難しい時代であることを踏まえて、自分の存在を認める、できること・できるようになりたい事を語ることも大切である。 ドリームマップはよい取り組みだと思いますが、毎年となると授業時数が不足するのでは。どの学年が効果的かの検討が必要ではないか。 子どもたちが地域で活躍できるような場所を与えたい。 自分でどんな地域貢献ができるか考えさせる機会を作って欲しい。
		②ふるさとづくりの推進(地域の文化、人材の活用)	地域ぐるみの教育をめざし、地域の人材を積極的に活用したり地域の教材化を図ったり地域との連携を図っている。	84.4	A				
		③ユニバーサル・デザイン化の推進	学校生活のユニバーサル・デザイン化を進め、すべての生徒にわかりやすい指導に努めている。	82.1	A				
	(4) 一貫教育	①幼小中の連携体制	幼稚園、小学校との連携を推進するための組織が機能し、相互交流が活発に行われている。	76.7	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、天候や日程の関係で体育大会と文化祭での幼稚園児との交流ができなかったが、工夫をして園児との交流を継続していきたい。 小学校との連携を深めて、基礎学力の定着に努める。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を定着させるために、小学校高学年とテキストの一本化を模索して欲しい。 近くに幼稚園があるので、絵本を読みに行ったり、遊んだりもっと増やせばよいと思う。
		②学びの連続性を踏まえた指導	幼稚園、小学校と中学校との学びの連続性を深めるために積極的に指導の交流を進めている。(出前授業、合同研修会の開催など)	76.7	B				
	(5) 学校の情報化	①教員のICT活用能力	一人一人の教師がICTを活用した授業を積極的に進めている。	78.3	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人のICT活用能力を高めるために、研修会を開催したり、外部の研修会に積極的に参加する。 町の情報教育指導員を活用して、生徒のICT活用能力の向上を図る。 猪名川町セキュリティーポリシーを徹底し、遵守する。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ICTのメリット・デメリットを把握して、有効に利用してください。
		②生徒のICT活用能力の向上	オンライン学習システムを導入し、学力向上を図るとともに、生徒自身のICT活用能力の向上にもつなげる。	78.3	B				
		③校務支援システムの活用	校務用パソコンを活用し、情報資産の共有化や業務の効率化を図り、学校事務の改善を推進している。	85.0	A				
		④個人情報の保護管理	電子データ、紙媒体、口頭を問わず、猪名川町セキュリティーポリシーを遵守している。	86.7	A				

2	確かな学力	(6) 信頼される学校づくり	①保護者や地域からの信頼	保護者が安心して子どもを通わせ、子どもの成長に満足している。地域を大切に取組が進められていると保護者や地域住民が感じられる教育を推進している。	82.8	A	・「学力向上」と「安全・安心」をキーワードとした学校づくりに努める。 ・猪名川町が推進している「コミュニティスクール」に取り組む。	◎	◎	・地域の学校としての役割を大切にしてほしい。
		(1) 教育課程	①教育計画	年間計画が適正に実施されている。また、授業日数・授業時数の配当及び時間割・校時表が適切かつ効果的に配当され、実施されている。	75.0	B	・授業数確保のために、週30時間で実施する。 ・行事に関わる時数を見直し、授業時数を確保する。	◎	◎	・時数の確保と共に、メリハリのある授業を期待する。
		(2) わかる授業づくり	①学修者が主体の指導内容・指導方法の工夫改善	学習する者が主体的、協働的に学ぶ指導方法の工夫改善(アクティブラーニング)に取り組むとともに、授業のユニバーサルデザイン化を図っている。	83.9	A	・生徒が内発的な動機付けを高めるような授業をすることによって、自主的な家庭学習ができるように努める。 ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業が展開できるように研修を深める。 ・教師用冊子「わかる授業・魅力ある授業の創造のために」を活用し、六瀬スタイルの確立を図る。 ・六瀬村塾を継続していく。 ・授業に対する生徒アンケート実施し、授業改善につなげていく。(PDCAサイクルの確立)	◎	◎	・家庭での学習習慣の確立は、中学校だけでなく、小学校のころからの積み重ねが大切である。小学校のとの連携を更にして欲しい。 ・発表に仕方、プレゼンテーション力の向上にも力を入れて欲しい。 ・新しいことに取り組むには、先生方の発想の切り替えが必要でです。忙しいと思いますが、生徒のために取り組んで欲しい。
			②言語活動の充実	学習活動の中に言語活動を大切に位置づけている。	83.9	A				
			③体験学習の推進	体験的な学習活動をできるだけ取り入れ実感をともなう学習に努めている。	88.3	A				
④指導と評価の一体化	指導と評価の一体化を常に意識した授業を展開し、できていない生徒への働きかけを粘り強く行う。		80.4	A						
	⑤家庭での主体的な学習活動の推進	家庭での学習活動を定着させるために、放課後学習などの取組や副教材の工夫などを積極的に展開する。	82.1	A						
(3) 特別支援教育	①特別支援教育推進体制の強化	特別支援教育についての全教職員の共通理解のもとサポート体制が整備されている。	82.8	A	・一人一人の教育的ニーズに応えられるように、研修を行い、教師一人一人の力量を高める。	◎	◎	・学校全体にあたたかい雰囲気があるので、一人一人をしっかり見守ってもらっていると感じる。		
	②特別支援学級の充実	特別支援学級在籍生徒への理解が深まり、適切な指導に向けた実践研究が進んでいる。	84.4	A						
	③授業で困り感のある生徒への対応	支援の必要な生徒に対して、スクールアシスタントを配置するとともに、巡回教育相談やSSW、SCを活用し、より効果的な手立てを検討している。	90.6	A						
3	豊かな心	(1) 生徒指導	①生徒指導方針の共有と指導体制	生徒指導方針を明確にし、全教職員の共通理解のもと問題行動の未然防止に努め、問題行動に迅速かつ一貫した指導に当たっている。	76.7	B	・生徒達がスマホやケータイの使用によって、被害者にも加害者にもならないように、講習会を開催したり、保護者への啓発を行っていく。また、教師が積極的に外部の講習会に参加していく。 ・「いじめを許さない学校」を年度当初だけでなく年間を通じて、学校だよりやホームページで呼びかける。 ・生徒同士の間関係を良くするために、「ライフスキル」の授業を行う。 ・SCやSSWを活用して、不登校生への効果的な指導に努める。	◎	◎	・不登校生徒については、長期化しないような取り組みをしてください。 ・笑顔での挨拶ができるよう指導して欲しい。
			②教員の生徒指導力(集団づくり)	規律ある学習や学校生活を指導するとともに、好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくりができています。	76.8	B				
			③教育相談の推進	全教職員が生徒の内面理解に努めるとともに、面談週間やスクールカウンセラー等が効果的に機能している。個別支援に努め、不登校や虐待等の問題にもきめ細やかに対応している。	81.3	A				
			④いじめを許さない指導の充実	いじめを許さない校風のもと、いじめの早期発見・早期解決に向けたアンケートや教育相談の充実を図り、いじめ対応チームを軸にした指導体制の充実を図っている。	81.3	A				
			⑤情報リテラシーの向上	スマホ、ケータイなどのルール、マナーづくりを推進し、ネット依存、ネットいじめ、課金問題、個人情報保護問題などに充分対応できる子どもたちを養成している。保護者の啓発と協力を得て、親子ルールをつくっている。	79.7	B				
(2) 道徳教育	①道徳教育	全体計画が作成され、全教育活動の中で道徳性を育成するよう取り組むとともに、道徳の時間の指導を工夫している。教科道徳に向けての準備も進められている。	80.0	A	・ローテーション授業を取り入れ、全教職員で道徳性の育成に努める。	◎	◎	・今、実社会で起こっている問題をタイムリーに取り上げ、生徒に考えさせてほしい。		
(3) 人権教育	①人権教育	人権尊重の精神が隅々まで行き届き計画的に育成されている。新たな人権課題にも対応した取組も進められている。	75.0	B	・LGBTなどの新しい課題にも取り組んでいく。	◎	◎	・今、実社会で起こっている問題をタイムリーに取り上げ、生徒に考えさせてほしい。		
(4) 特別活動	①特別活動	行事の内容が充実するとともに、望ましい集団活動を通じて自主的・計画的に活動の活性化が図られている。	81.3	A	・生徒達の意見が反映された自主的な活動ができるように努める。	◎	◎	・生徒主体の活動を活発化して下さい。		
4	健康・安全	(1) 危機管理体制の整備	①危機対応マニュアルの確立	災害や事故発生時の危機対応マニュアルが設置され、全教職員が地域と協力して速やかに実行できる。	76.6	B	・自分の命は自分で守るという意識を持たせる授業が実施できるように努める。 ・可能なら生徒向けの防犯訓練を実施する。	◎	◎	・防災教育については、繰り返しの学びが必要である。新たに加えるのが難しいなら、これまでの取り組みの内容改善をして下さい。
			②防犯教育、防災教育の充実	生徒の防犯、防災意識を高め、緊急時に生徒が迅速かつ的確に行動できるよう指導している。	81.3	A				
			③教職員の訓練	平常より防災研修や防犯教室等の訓練を通じて、教職員一人一人の危機管理の実践力を高めている。	78.1	B				
(2) 健康・安全	①健康・安全指導	健康で安全な生活を送るための保健衛生指導が徹底できている。また、災害発生時にもリスクを最小限にとどめる配慮や指導が行われている。自転車通学の安全が十分に図られている。	81.3	A	・交通安全教室やパトロールを充実させる共に、保護者や地域の方に協力してもらい、自転車転倒による怪我をなくすように努める。	◎	◎	・継続的な体力づくりの取り組みをしてほしい。		
②食育・給食指導	望ましい食習慣を身につけ、健康な食生活を送るための指導が、家庭や地域と連動して意図的・計画的に行われている。	78.3	B	・栄養教諭による食の指導の場を設定し、食への関心を高める。						

(3) 部活動	①適正な部活動の推進	部活動は人格の完成をめざすものであり、生徒の主体性のもと、計画的、協働的におこなわれている。 勝利至上主義や生徒、保護者に過度な負担をしいていないなど、適正な活動がおこなわれている。	80.0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度より、町の部活動ガイドラインに則り、朝練習は行わない。(3中学校) ・生徒の自主性を尊重した部活動運営に努める。 ・安全安心な指導を優先し、可能な限り、全員顧問、複数顧問で対応する。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問の先生方には、いつも感謝しています。怪我のない安全な部活動運営をしてください。
	②健康・安全についての配慮	部活動における生徒の健康や安全について、リスクを最小限にとどめる配慮や指導が行われている。	80.0	A				